

第2回黒部川流域懇談会 議事要旨

開催日時：平成20年1月15日（火）14:00～16:15

場 所：ホテルアクア黒部（2F ロイヤルシンフォニー）

議事次第： 1. 開 会

2. 挨拶

3. 出席者の紹介

4. 議 事

1) 第1回黒部川流域懇談会議事要旨について

資料-1

2) 河川整備計画について

資料-2

① 黒部川の現状と課題

② 黒部川の河川整備の基本的考え方に関する事項

3) 第3回黒部川流域懇談会について

資料-3

5. 質 疑

6. 閉 会

■議 事

1) 第1回黒部川流域懇談会議事要旨について

①流域および河川の概要について

②河川整備基本方針について

③現況および課題について

④河川整備計画について

[主な意見]

(委員F)

- ・ サクラマス採捕数が減っているため、なるべく深い淵ができるように配慮ができないか。
- ・ 正常流量の4.5m³/sは少ないと思われるので、河川に魚が生息できるような流量を確保してほしい。

(事務局)

- ・ 治水上安全な箇所にある淵については保全していく。また、可能であれば淵を意図的につくっていききたい。
- ・ 正常流量については、以前の計画4.17m³/sを関係団体との調整により、4.5m³/sに増やしている。正常流量4.5m³/sというのは、一年中4.5m³/sではなく最低でもこの流量を確保するという意味であることを理解していただきたい。

(委員 J)

- ・ 機能する霞堤をしっかりと PR し、霞堤に対する愛情、重要性というものを認識させていただきたい。

(委員 E)

- ・ 黒部川の土砂に関して、上流部、中流部、下流部でどのような変化が起きているのかを、地域住民や関係者に示し、共通認識する必要がある。

(委員 F)

- ・ 連携排砂によって、河原に細かい砂が多くなり、アユやカジカの生息に影響を与えている。総合土砂管理の問題は、細かい砂だけ（量）が問題ではなく、内容（質）が問題であると思う。関係者で議論していただきたい。

(座長)

- ・ 川の耐力という点からも、石の大きさは極めて重要であり、小さい石では河床が洗掘し、堤防が危険になる。このテーマについても、整備計画の中で十分検討していく必要がある。

2) 河川整備計画について

①黒部川の現状と課題

[主な意見]

(委員 A)

- ・ 河川整備計画に対する社会環境問題や地域の行政や諸団体とのすり合わせを、今後どのように行う予定なのか。
- ・ 計画高水流量 6,500 m³/s に対して、愛本堰堤は 6,100 m³/s の規模で造られているが、河積の拡大を行う予定等はあるのか。
- ・ 連携排砂の実施により、粘土・シルト等が黒部川に堆積し、地下水低下の原因になっているのではないか。また、これらのデータは公表されていないのではないか。

(事務局)

- ・ 地域の方々からも意見を聴取する予定となっており、その実施方法について、次回議論していただく予定である。
- ・ 河川整備計画上の対象流量は、6,500 m³/s ではなく、昭和 44 年 8 月の洪水規模とする予定であり、次回の懇談会で提示する。
- ・ 粘土質は浮遊砂として流下し、河床に堆積するのは砂質系のものであるため、地下水低下への影響はないと考えている。データについては全てホームページ上で公開している。

(委員 F)

- ・ 連携排砂時や洪水時には、黒東合口、黒西合口の両方とも愛本地点で取水を中止するため、魚の避難所であるやすらぎ水路に水がなくなってしまう。井戸を掘って給水す

る等の配慮をしていただきたい。

- ・ 愛本堰堤よりも下流においても、根継工事等のために玉石が採取されている。愛本堰堤より下流では玉石をとらせないということが、総合的な土砂管理を行う上で適切ではないか。
- ・ 「よい子は川で遊ばせない」ではなく、大いに川に入って多くのことを勉強してもらいたい。特に教育関係の方々に要望したい。

(委員K)

- ・ 河川敷を利用した昆虫採集や魚つかみ等、教育委員会サイドを通して、川にふれあう機会を多く持つように働きかけている。
- ・ 河口では、水上バイクや犬の散歩がみられ、貴重なコアジサシにとっては問題である。
- ・ 村椿の霞堤は、すばらしくいいところできれいに保存されている。

(事務局)

- ・ やすらぎ水路については、水を供給する等の方法を検討している。
- ・ 河川整備計画の中に、たとえば「玉石は極力残す」等、文章として書き込みたい。また、歴史的な施設等の保全についても整備計画の中に書き込みたい。

②黒部川の河川整備の基本的考え方に関する事項

[主な意見]

(委員J)

- ・ 樹木の伐採計画は、洪水による攪乱のサイクル(17~18年)に配慮し、さらに高水敷等の植生を伐採した後、平地にしてしまうのではなく、植物の再生や小動物の生息に配慮し、多少自然の放置状態を保つ方が管理上よいのではないか。
- ・ 木流し工のために植えてある松の木が大きくなりすぎており、木流し工として使用できない状態となっているため、新しく植える等の処置をとるべきではないか。
- ・ 近年、高水敷上にドクウツギが見かけるようになったが、樹木管理の対象となるのではないか。

(委員C)

- ・ 宇奈月ダム運用後は、適切な放流量が維持されているのか。

(事務局)

- ・ 宇奈月ダム運用後は、義務放流により最低4.17m³/sは満足している。

(委員F)

- ・ 宇奈月ダムでは水道水供給量の58,000m³/日が未利用となっているが、水管理を行っている国土交通省としてこの問題をどのように考えているのか。

(事務局)

- ・ 環境改善事業として、未利用の0.68m³/sを有効に利用し、正常流量の4.5m³/sを確保していきたい。

(座長)

- ・ 総合土砂管理の中でモニタリングを実施することは非常に重要なことであるが、量的な変動だけでなく、河床材料調査による質的な変動についても今後のために調べておく必要がある。

3) 第3回黒部川流域懇談会について

- ・ 異議なし

－以 上－